

【山陰インバウンドニュース7月号】

令和3年7月30日
(一社)山陰インバウンド機構

【8月17日開催】山陰ツーリズム人材育成塾記念セミナー

ゆさん

「『遊山』と『観光』—時代を経ても不変のツーリズムマインドとは」

国立大学法人島根大学と一般社団法人山陰インバウンド機構では、観光による地域活性化を担う人材を育成・輩出することを目的に、この度、「山陰ツーリズム人材育成塾」を開講しました。これを記念し、東京農業大学客員教授の神崎宣武氏を講師としてお招きし、下記のとおり、オンラインセミナーを開催いたします。多くの方のご参加をお待ちしております。

◇日時：令和3年8月17日（火）10：30～11：30

◇演題：『遊山』と『観光』—時代を経ても不変のツーリズムマインドとは

◇講演内容

東京オリンピックの誘致スピーチで「おもてなし」が使われ流行語となりました。これは、いうまでもなくホスト側の心得です。望ましいツーリズムは、ホストとゲストの良好な関係の構築にあります。では、ゲスト側の心得とはどんなもののでしょうか。現代と同じように旅の発達をみた江戸期の『旅行用心集』をひも解いていきます。

◇開催方法：Webサービス「ZOOM」のウェビナー機能を利用

◇参加費：無料（Webサービスへの参加は無料です）

◇参加方法は、当機構WEBサイトをご参照ください。

<https://www.sanin-tourism.com/?p=7257&preview=true>

<講演者>東京農業大学客員教授 **神崎 宣武 氏**

1944年、岡山県生まれ。民俗学者。令和3年3月まで旅の文化研究所所長。現在、東京農業大学客員教授、公益財団法人伊勢文化会議所五十鈴塾塾長、一般社団法人高梁川流域学校校長、岡山県文化振興審議会委員などをつとめる。岡山県宇佐八幡神社宮司でもある。

主書に、『江戸の旅文化』（岩波新書）、『社をもたない神々』『旅する神々』（角川選書）、『酒の日本文化』『しきたりの日本文化』『「おじぎ」の日本文化』（角川ソフィア文庫）、『大和屋物語—大阪ミナミの花街民俗史』（岩波書店）、『「うつわ」を食らう—日本人と食事の文化』（吉川弘文館）、『神主と村の民俗誌』『日本人の原風景—風土と信心とたつきの道』（講談社学術文庫）などがある。

「山陰ツーリズム人材育成塾」について

- 島根大学と山陰インバウンド機構が連携し、観光による地域活性化を担う人材を育成・輩出することを目的に、本年8月にスタートする新たな取組です。
- 島根大学において、山陰地域に求められる観光人材を育成するために新たに開発した教育プログラムを提供していきます。（講座、ゼミ、視察・モニターツアー等）
- また、受講生の観光事業化や商品造成を伴走支援し、受講者個々のニーズに対応した支援を行います。

<履修期間>令和3年8月16日～令和4年2月20日

※具体的なプログラムの内容については、下記のウェブサイト（島根大学）にてご確認ください。

https://www.shimane-u.ac.jp/education/school_info/edu_programs/edu_program09.html

島根大学とパートナーシップに関する協定を締結しました

令和3年7月13日(火)、島根大学において、服部泰直学長、当機構福井善朗代表理事ほか関係者が出席し、当機構と同大学のパートナーシップに関する協定の締結式が行われました。

この協定は、当機構と島根大学が包括的な連携・協力のもと、両者が有する人材育成に関するノウハウや情報等を有効活用し、観光教育の拡充を図ることで、山陰地域の活性化に寄与することを目的とするものです。協定には、社会人の学び直しを含む観光人材の育成に関する事項、観光を軸にした地域づくりに関する事項、観光を活用した地域課題の解決に関する事項等が盛り込まれました。

締結式で服部学長からは、「本学は地域貢献できる人材の育成に取り組んでおり、社会人学び直しすなわちリカレント教育を重要視している。本学には観光学に特化した教員はいないため、観光を切り口に地域創成していく人材育成のためにはこのパートナーシップに関する協定の締結は不可欠である。」との挨拶がありました。また、福井代表理事からは、「当機構では、観光地域づくり法人(DMO)の最重要ミッションは人材育成であるとの考えのもと、観光人材の育成に取り組んできた。今後は、教育機関である島根大学のリソースを最大限活用させていただきながら、全国から有為な人材を集め、地域に観光人材を持続的に輩出し、観光による地域振興を進めていきたい。」と述べました。

8月からは、観光ビジネスを展開したい、山陰を地域で活性化させたいとの思いを持った社会人や学生を対象に、座学や現地での視察調査を通じて専門性を磨く「山陰ツーリズム人材育成塾」を開講します。

当機構では、今回の協定締結を契機として、島根大学と連携しながら、観光人材育成と山陰地域の振興に貢献することを目指します。



大田市及び大田市観光協会の職員を対象に「観光商品開発マニュアル」研修会を開催しました

7月26日、大田市役所において、当機構が発刊した「観光商品開発マニュアル」を活用した研修会を開催しました。「観光商品開発マニュアル」は、観光まちづくりに取り組む関係者が、地域ならではの観光商品を作り販売するための手引書です。当機構では、同マニュアルを活用した観光による地域振興の取組を支援しており、今回の研修会はその一環として実施したものです。当日は、大田市、大田市観光協会から観光や地域振興を担当する職員が参加。最初にマニュアルの概要及び活用方法について説明した後、ワークショップ方式により観光商品開発の具体的な事例検討を行いました。参加者からは、「マニュアルの内容がよく理解できた」「今後の業務にマニュアルを利用していきたい」等、多くの好意的な意見が寄せられました。

機構では、今後も山陰各地で同様の研修会を実施し、地域主体による観光を通じた地域振興の取組を支援していきます。



バーチャルツアー「Japan Virtual Fam Trip」を開催しました

7月28日(水)、JNTO ロサンゼルス事務所と連携し、山陰の観光地をバーチャルで体験する「Japan Virtual Fam Trip」を開催しました。当事業は、新型コロナウイルスの影響により海外の旅行社等を招待するFAMトリップ(※)が実施できない中、米国の富裕旅行を取り扱う旅行会社を中心に、山陰の魅力ある観光地のイメージを持ってもらい、将来の旅行商品の造成を目的に実施したものです。(※FAM トップ：観光地の誘致促進のため、ターゲットとする国の旅行事業者やブロッガー、メディアなどに現地を視察してもらうツアー)

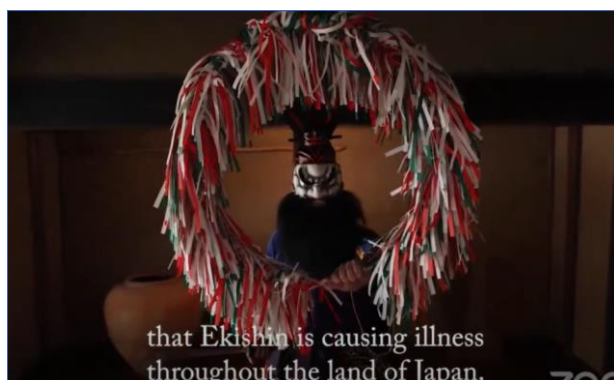
当日、ライブ配信されたバーチャルツアーには、米国の旅行会社を中心に多くの関係者が参加(事前登録者数：445名)。最初に、現地ガイドが石見銀山大森町の街並みの様子を紹介した後、石見神楽「鍾馗(しょうき)」の舞いの動画を披露しました。続けて、ツアーは大山エリアに「移動」。現地ガイドが当地ホテルから望む日本海の自然を眺めながら、プライベートシェフによる地元食材を利用した料理を紹介しました。

参加者からは、「日本にこのような魅力的な地域があるとは知らなかった」、「石見神楽の勇壮な舞いは素晴らしかった」等、多くの好意的な反応がありました。

当機構では、インバウンド需要回復を見据え、今後も山陰地域の魅力を継続的に発信し、海外からの富裕層誘客に取り組んでいきます。

※約1時間にわたるバーチャルツアーの様子は、下記の JNTO 公式 YouTube チャンネルからご確認いただけます。

【URL】 <https://www.youtube.com/watch?v=1e8jWhFXLYw>



(石見神楽の紹介動画)



(ライブ形式による現地ガイドの説明(大森地区より))



(大山の紹介動画)



(ライブ形式による現地ガイドの説明(大山より))

【令和2年度機構事業成果報告会（第4回）】「山陰の魅力を活かした旅行商品造成や地域製品の販売支援の取組について」の動画を公開しました

6月30日、4回目となる当機構の令和2年度事業成果報告会を開催しました。今回は、日本在住で山陰を応援して下さる在住外国人「山陰インバウンドアドバイザー」を活用した旅行商品造成の取組や、山陰地域の魅力を活かした旅行商品や地域の優良製品の販売支援を目的に構築したECサイト「heaheaday」等を紹介しました。研修会の様子は、機構の公式YouTubeチャンネルで公開していますので、見逃された方は、是非、ご視聴いただきますようお願いいたします。

【機構公式URL】 https://www.youtube.com/channel/UCx4vy7n85H44dEzx_1I2VJg

山陰DMO

検索

観光関連統計等

山陰への訪日外国人宿泊者数※観光庁宿泊旅行統計調査（従業員10人未満の施設を含む）

期間	山陰への訪日外国人宿泊者数（鳥取/島根）	比較
2021年4月	1,650人泊（鳥取670人/島根980人）	前年同月比15.4%増
2020年4月	1,430人泊（鳥取1,040人/島根390人）	
日本全体の現状 2021年4月 （速報値）	224,680人泊 ※観光庁宿泊旅行統計調査 https://www.mlit.go.jp/kankochou/siryou/toukei/s_hukuhakutoukei.html	前年同月比9.3%減